

2011年

- 3月11日 東日本大震災発生
国見町では震度6強を観測
観月台体育館他各地に避難所を開設
日赤奉仕団による炊き出し
- 3・4月 応急仮設住宅を町内4カ所に建設
- 7月 学校などの表土除去を開始

2012年

- 4月 水田の吸収抑制対策
町内会やボランティアによる線量調査、清掃・草刈作業
- 5月 ホールボディカウンタによる検査
- 8月 公共施設の除染作業を開始
- 9月 米の全量全袋検査開始

2013年

- 7月 くにももたん広場オープン
住宅除染開始
- 8月 1回目の女性応援団ツアー開催
- 10月 除染廃棄物が仮置場へ搬入開始
- 11月 震災後初めての総合防災訓練
- 12月 あんぽ柿が3年ぶりに一部出荷

2014年

- 4月 桜の聖母短期大学との連携協定締結
- 9月 福島大学との連携協定締結
- 11月 産業祭・森のおもちゃフェスティバル・ママまつり in 国見など元気・活力事業を実施

2015年

- 2月 歴史まちづくり計画が国から認定
- 4月 県北浄化センター仮設汚泥乾燥処理施設が稼働
- 5月 役場庁舎開庁式
- 10月 住宅除染が前倒しで終了
- 12月 観月台文化センターホール再開

2016年

- 1月 道の駅建設工事開始
- 3月

「東日本大震災を考える町民のつどい」
ぜひご参加ください。
日時：3月12日(日)午前10時から正午
場所：観月台文化センターホール

オール国見で 取り組んだ5年間

東日本大震災から5年が経過しようとしています。国見町では震度6強を観測し、700棟を超える住家が全壊や半壊などの被害を受けました。道路や橋梁も寸断され、水や電気などライフラインの供給も停止しました。数分間の大きな揺れとともに当たり前だった日常生活が一変し、余震のなか不安な日々を過ごした記憶が思い出されます。

震災後は各所で復旧工事が進められ、ライフラインや道路などは徐々に元の姿を取り戻しましたが、福島第一原子力発電所の事故にともなう除染作業や農産物の風評被害などは5年経過してもなお解決できていません。現在も引き続き対応が進められています。

一方で、震災はこれまでの暮らしを見直すきっかけともなりました。1000年の歴史がある国見町で、長年かけて培われてきた人々の知恵、文化、わざ、

歴史などの魅力を見つめ直し、100年後の人たちに伝えていく取り組みが始まりました。連携協定を締結した福島大学や桜の聖母短期大学の学生の協力を得て、地域の人たちと一緒に進めている「たからものがし」もその取り組みのひとつです。暮らしの中で当たり前となっていた郷土独自の食や祭礼、営みの魅力を見つめ直し、良さを発信しています。今年度は内谷地区や貝田地区で行われました。

町独自の良さを見直す新たな取り組みは始まったばかりです。まだ隠れている「たからもの」を探し、より良いものとして未来へつなげていくため、今後ともなさんと一緒にさまざまな取り組みを進めていきます。

5年間で ふりかえる

